

少年少女世界のノンフィクション

Transportation and Industry. Prior to the city had one of the largest railroad stations with service to all the leading German cities. Road and rail facilities permitted the export of the large deposits of lignite in Saxony.



by the French themselves. Meanwhile their attack. The French, having neither swam across the river nor a French losses were very heavy, including a prisoner.

metal wares, metal toys, combed wood, the chief ones being principal items of cloth, and glass.



was established in 1409 by 46 professors and 369 students who had withdrawn from the University of Prague during the Hussite conflict in that city. Following the liberation of Prague, under Bohemian influence and at the expense of the Germans, Frederick I of Meissen

and his brother Wilhelm invited the dissonance at Leipzig and to establish there a university that in Prague. The rulers provided for two houses, the *collegium major* and the student body was organized into four nations:



LEIRIA [leiri'ə], an city in Estremadura, west central Portugal. **The City.** The city of the Lis River some 15 mi. inland, halfway between Lisbon and

Germany, Bavaria, and Poland, according to the system of student organization in other countries. Lectures were given at the expense of the faculty, a practice which had been followed by such other European universities as the



Leiria is primarily an administrative center for the agricultural produce of the district: cereals, fruits, vegetables, wine, and local industrial products such as textiles, glass, fertilizers, and ironwork.

LEIPZIG, BATTLE OF (Oct. 16 to Oct. 19, 1813), also called the Battle of the Nations, an engagement in which Napoleon was defeated by the allied armies of Austria, Russia, Prussia, and Sweden. The French ruler's willingness to fight was due mainly to his fear of being cut off



The city was taken by the Visigoths again in 850. It suffered its loss, in 1140, when the castle there on

The faculties at the university of medicine, veterinary medicine, philosophy, social science, and pedagogy. There are a number of institutes: physico-mineralogical, pathological



and the University of Paris. In the university, humanism was espoused, and the Reformation influenced education. The high standards attained by the university were lowered by the statutes of 1559, which set

LEND-LEASE under which the United States War II. In its early stages the every Allied power



LE NAIN, THE BROTHERS [lə nã'], Antoine (c. 1588-1648), Louis (c. 1593-1648), and Mathieu (1607-1677), a family of French painters born in Laon, who worked in Paris on genre scenes of peasant and petty-bourgeois life. Neglected by official taste after their death, and quite forgotten

It is now possible to distinguish the works of Antoine, who painted small, somewhat intimate scenes as the *Atelier* (Bute, London) and the *Family* (Louvre) from those of the youngest, Mathieu, who painted larger, more courtly canvases such as



Ram. Much better than either of his works, related to the general, retain a peculiarly French quality. *Hay Wagon* (Louvre) has a vitality that lifts it from the

Despite the unacademic character of the brothers Le Nain were among the founders of the Académie. Shortly afterwards, Louis and a few days of each other, the former died the latter on May 25. Mathieu lived

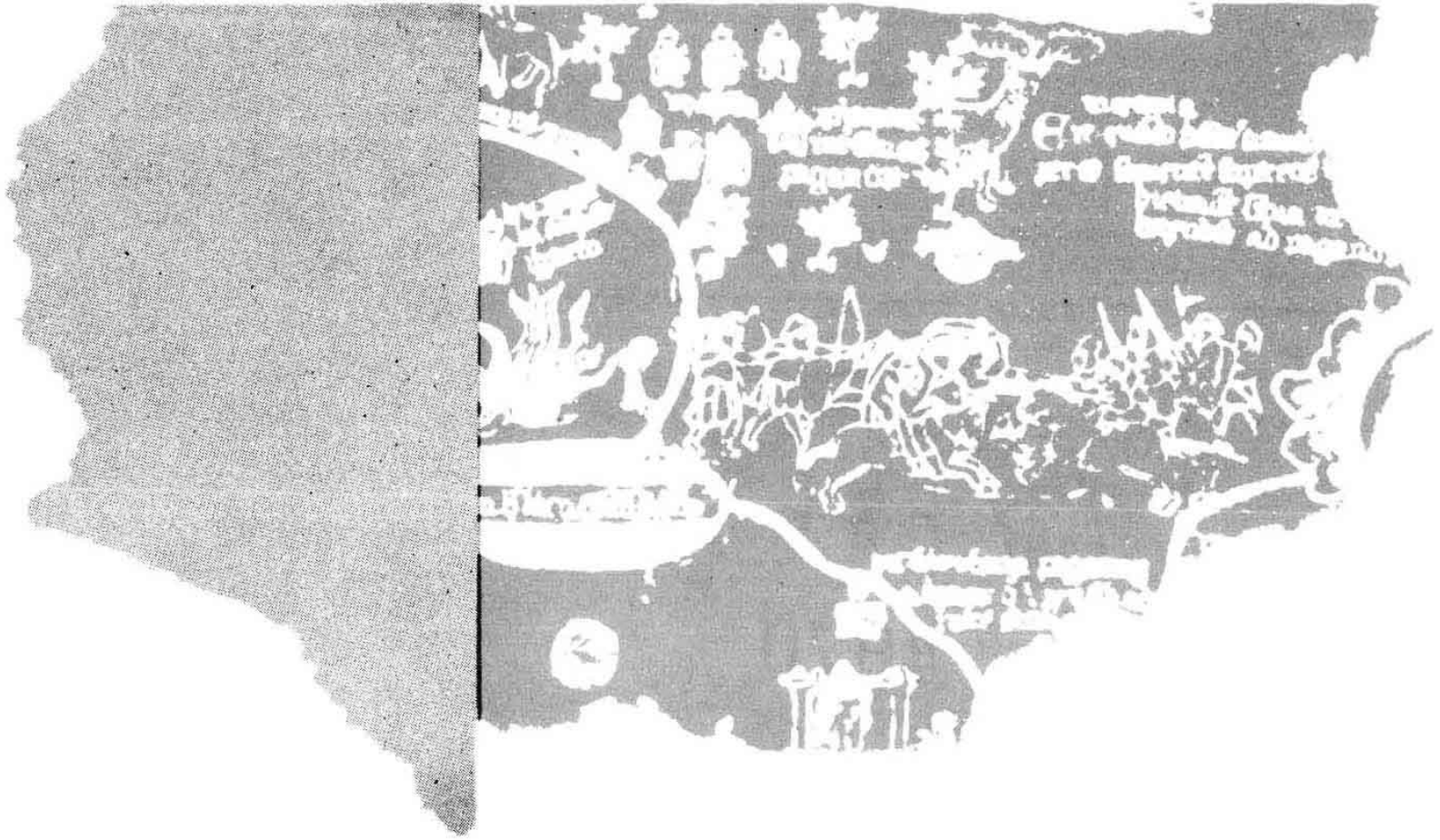


LONG BRANCH, a suburb of Toronto, Canada, lying along the shore west of the city. Truck bodies, paper, aluminum, and magnesium casting. During World War II a huge plant

少年少女世界のノンフィクション〈27〉

まぼろしの怪獣^{かいじゅう}

—デスモスチルス発見物語



たかしよいち-著

国立科学博物館-

長谷川善和-解説

偕成社

N・D・C 457 偕成社 1971年 224p 22cm

少年少女世界のノンフィクション 27 まぼろしの怪獣

発行 昭和四十六年¹¹
著者 たかしよいち

発行者 今村 広

印刷者 中村 榊

印刷所 新興印刷製本株式会社

定価 五〇〇円

発行所 株式会社 偕成社^{かいせいしゃ}

東京都新宿区市ヶ谷砂土原町三の五 振替東京一三五二番

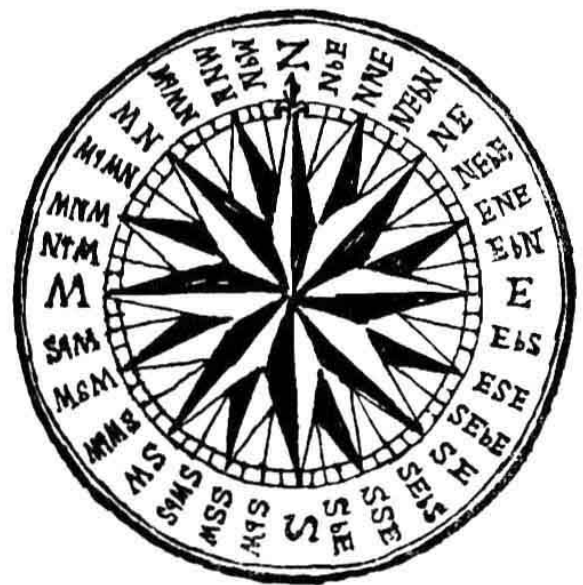
落丁本・乱丁本はおとりかえいたします。

* 読者のみなさんへ

ぼくがデスモスチルスという、ふしぎな動物のことを知ったのは、東京の国立科学博物館に展示されている化石の骨（岐阜県隠居山発見）を見たときからだ。

日本で発見された、はるか二千万年以上も大むかしの世界的な珍獣——カバでもなく、サイでもなく、もちろんバクやゾウでもないという、じつにふうがわりなこの動物の骨は、ちゃんと組みたてられてガラスのケースにおさまっていた。

その骨を見つめているうち、ぼくはもつとこの動物のことが知りたくなり、デスモスチルスの骨をおって北海道や佐渡島や岐阜の山へと旅立った。そして、科学者に会い、デスモスチルスをとおして、すでにこの地上からほろびさった哺乳動物のことを勉強した。



学^{まな}べば学^{まな}ぶほど古^こ生物^{せいぶつ}にたいする興^き味^みは際^{さい}限^{げん}もなくひろがっていく。

いまはもうそのすがたさえ見ることのできない過^か去^この世^せ界^{かい}の動^{どう}物^{ぶつ}をよみがえらせようと化^か石^{せき}にいどむ古^こ生^{せい}物^{ぶつ}者^がたちの執^し念^{ゆねん}に、ぼくは感^{かん}動^{どう}した。

このごろは、怪^{かい}獣^{じゆう}といえはすぐにグロテスクな空^{くう}想^{そう}上^{じよう}の怪^{かい}物^{ぶつ}だと思^{おも}われがちだが、それはあまりにばかげている。もともとの意^い味^みはそうではない。

なぞに包^{ほう}まれたふしぎな動^{どう}物^{ぶつ}デスモスチルスは、まさしく、まぼろしの怪^{かい}獣^{じゆう}である。

ぼくは、このまぼろしの怪^{かい}獣^{じゆう}への興^き味^みからさらに人^{にん}間^{げん}をふくめた生^{せい}物^{ぶつ}の進^{しん}化^かと滅^{めつ}亡^{ぼう}について、もっとふかく考^{かんが}えてみたいという願^{ねが}いからこの本^{ほん}を書^かいた。

ぼくは、ただこの一^{さつ}冊^{さつ}の本^{ほん}を書^かくために、数^{すう}年^{ねん}にわたって自^じ分^{ぶん}なりに、かなり^{かくとう}の格^{かく}闘^{とう}をしたつもりだ。だからこそ、この本^{ほん}であな^なたが大^{だい}いに格^{かく}闘^{とう}してくださることを、ぼくは心^{こころ}から期^き待^{たい}している。

たかしよいち



著^{ちやう}者^{しや}の略^{りやく}歴^{れき} 一九二八年、熊^{くま}本^{もと}市^しに生^うまれ^る。熊^{くま}本^{もと}語^ご学^{がく}専^{せん}門^{もん}学^{がく}校^{がく}卒^{そつ}業^{ぎやう}。

古^こ生^{せい}物^{ぶつ}学^{がく}、考^{こう}古^こ学^{がく}に関^{かん}心^{しん}を持^もち、児^じ童^{どう}文^{ぶん}学^{がく}者^{しや}として活^{かつ}躍^{やく}。おもな著^{ちやう}書^{しよ}に、

『埋^うめれた日^に本^{ほん}』『象^{ぞう}の来^きた道^{みち}』『マンモスの悲^ひ劇^{げき}』(ノンフィクション)

『黄^{おう}金^{こん}のきば』『狩^{かり}人^{にん}タロの冒^{ぼう}険^{けん}』(創^{そう}作^{さく})などがある。

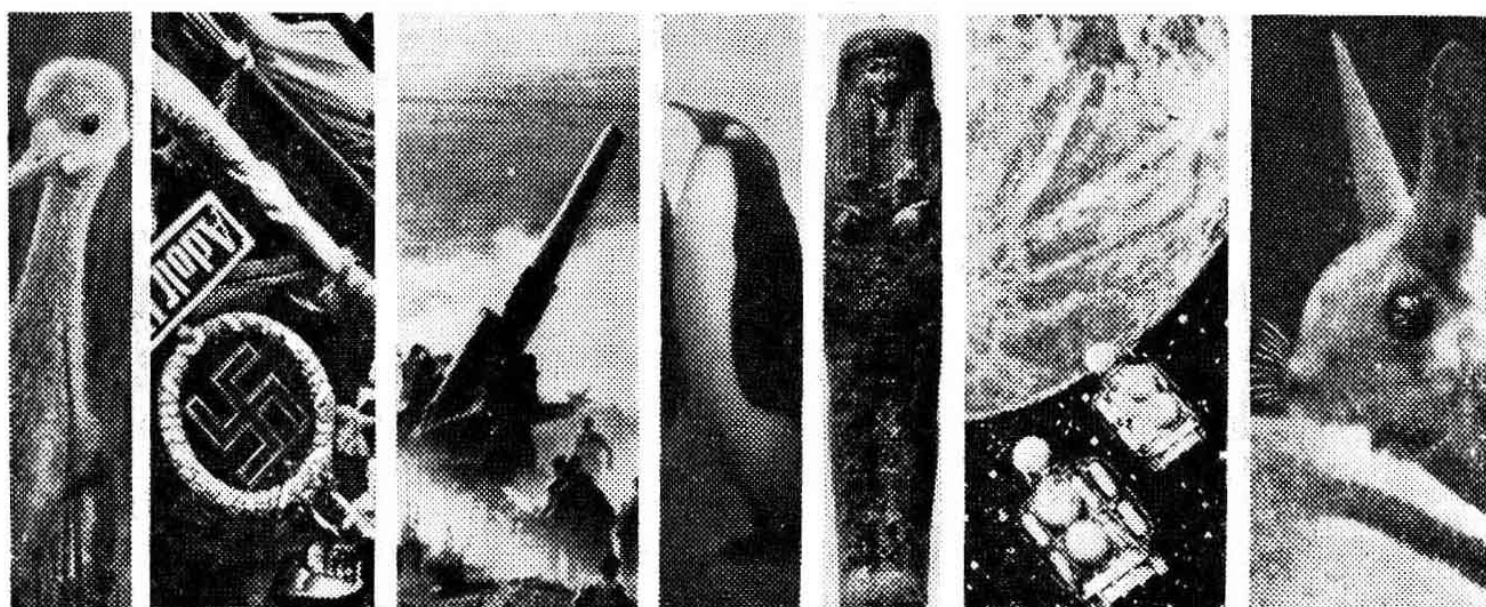
■ もくじ

まぼろしの怪獣

— デスモスチルス発見物語

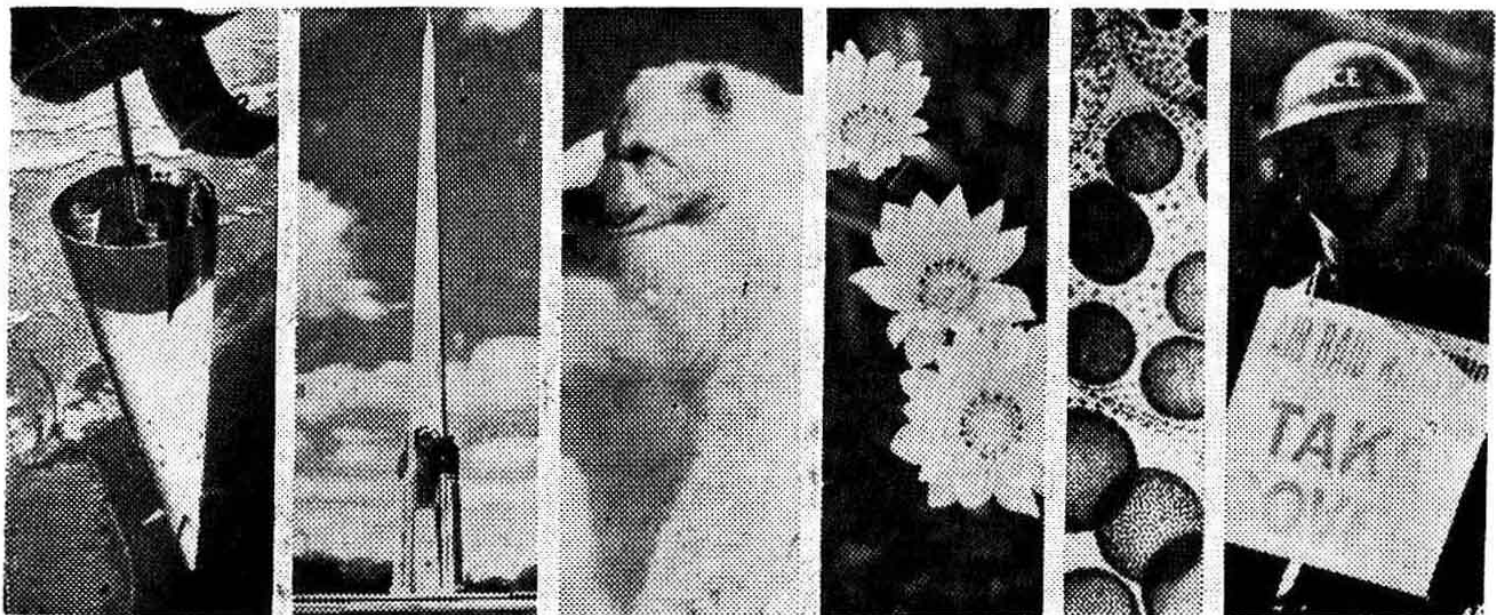
〈第一章〉 地中にうずもれた怪獣たち

一、ふしぎな歯の化石……	9
二、恐竜の滅亡……	22
三、古生物のなぞにいどむ……	32
四、ダーウィンと生物の進化……	45





五、化石動物の追跡……………	59
六、死にたえた巨獣たち……………	71
七、地上最大の哺乳類……………	77
八、ウマの化石をたどる……………	90
〈第二章〉 まぼろしのデスモスチルス	
一、日本にも怪獣はいた……………	98
二、佐渡の金山とデスモスチルス……………	108
三、骨を売りにきた男……………	113
四、よみがえる怪獣……………	132
五、呪われた人びと……………	161



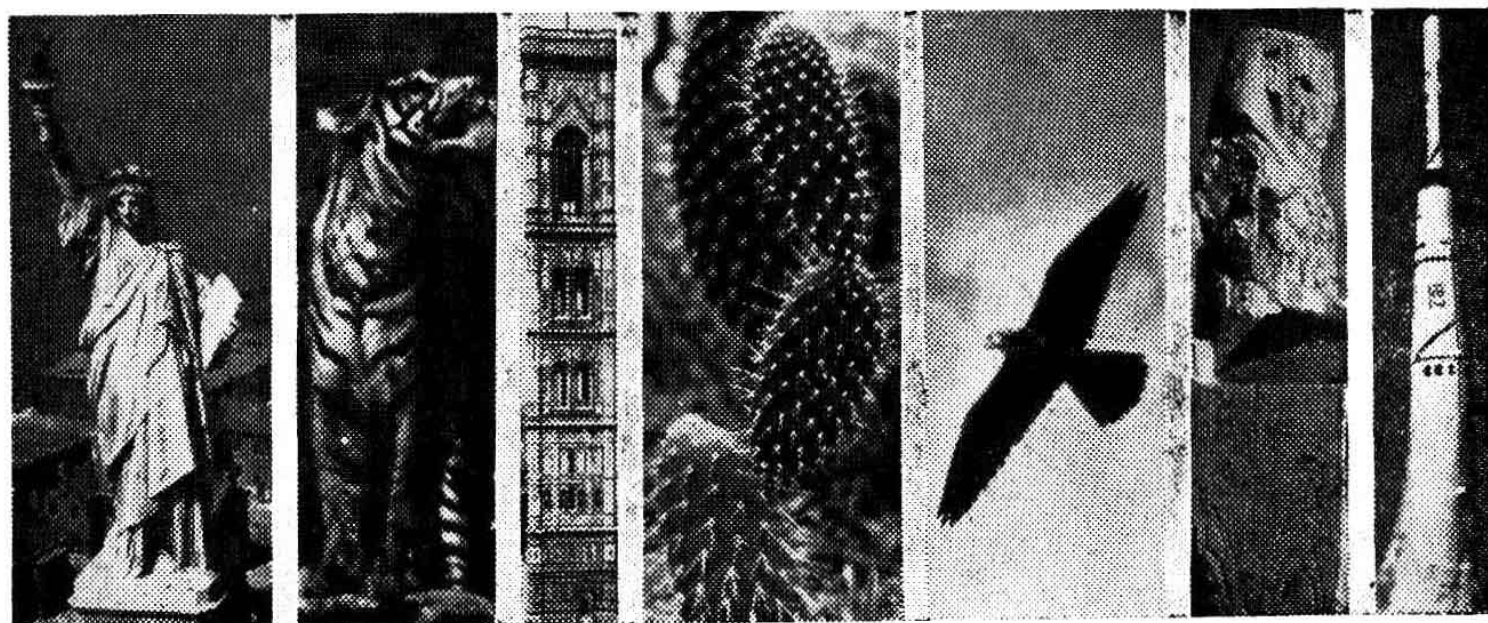
六、哺乳類の時代……………	168
---------------	-----

〈第三章〉 浮上したまぼろし

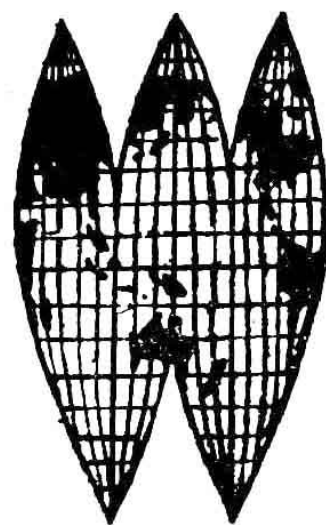
一、隠居山騒動……………	177
二、パレオパラドキシア……………	194

●解説

デスモスチルスの復元まで……………	国立科学博物館 長谷川善和……………	210
●『まぼろしの怪獣』を書きおえて……………	たかしよいち……………	220
●さくいん……………	……………	巻末
●地質時代区分と生物の進化表……………	……………	巻末



●装幀——A D 沢田重隆・D 坂野豊 さし絵——保田義孝 図表——進英社・峰村亮而



●箱絵説明

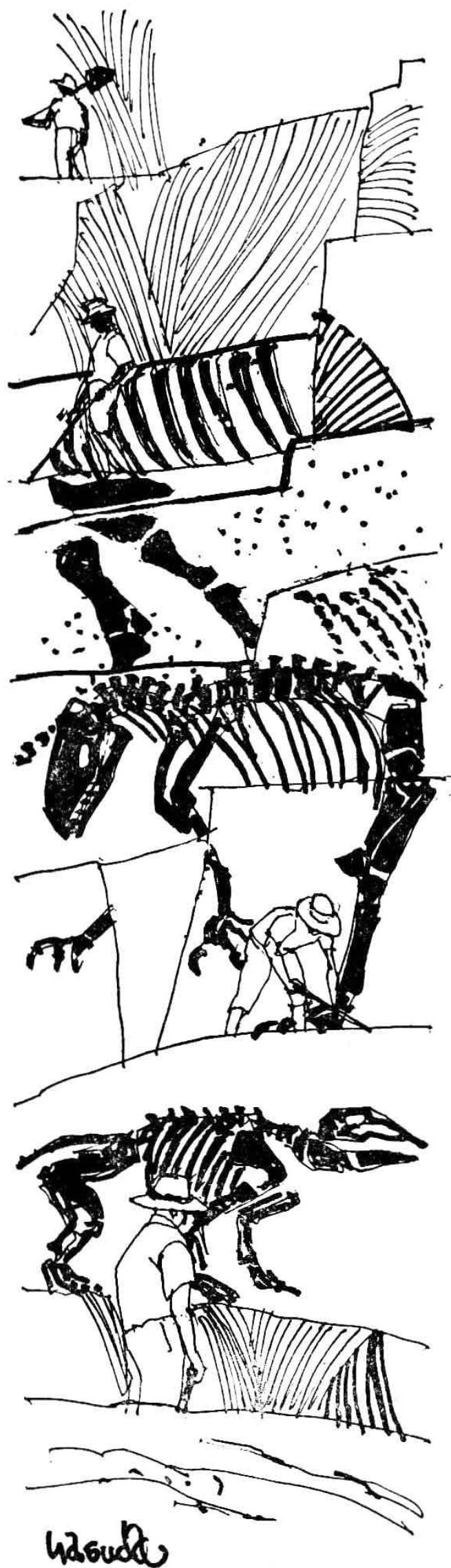
デスモスチルスの化石骨を掘りだしたあと、荷づくりする発掘隊の人びと（昭和九年、南樺太の気屯にて）。背後は、このとき発掘されたデスモスチルスの骨格復元図。

●写真・資料提供——橋本 互・戸松滋正・信田修治郎・鹿間時夫・井尻正二・長谷川善和・たかしよいち

国立科学博物館・佐渡博物館・アメリカ文化センター・アルゼンチン大使館

まぼろしの怪獣

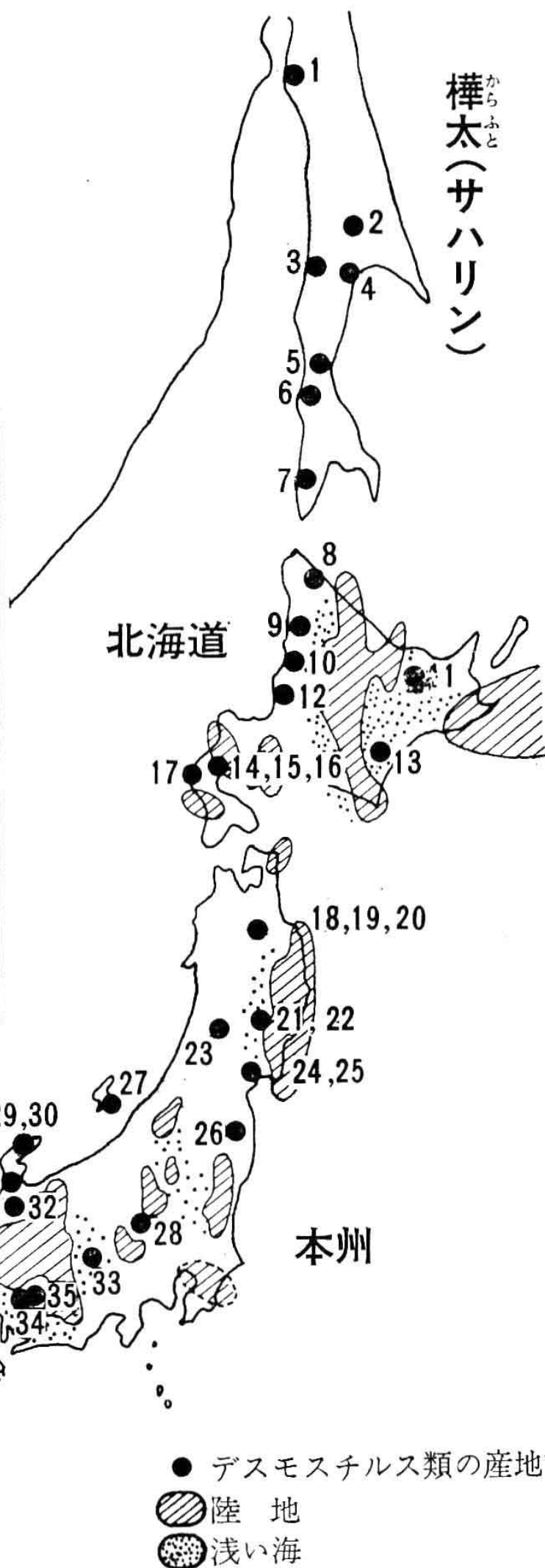
たかしよいち 著



	標本名	産地	化石の部分
1	スワの標本	北樺太	臼歯破片・骨片
2	氣屯	樺太 敷香郡	全骨格
3	桜沢	“ 恵須取町	臼 歯
4	内川	“ 敷香郡	臼 歯
5	鶴ノ巣	“ 野田郡	臼歯破片
6	亜牛	“ “	臼 歯
7	本斗	“ 本斗郡	臼 歯
8	鬼志別	北海道 宗谷郡	臼 歯
9	遠別	“ 苫前郡	臼 歯
10	雨竜	“ 雨竜郡	臼 歯
11	相内	“ 常呂郡	臼 歯
12	オビラベツ	“ 留萌郡	臼 歯
13	大勝	“ 十勝郡	臼 歯
14	メツプ	“ 瀬棚郡	臼 歯
17	ソイコシ	“ “	臼歯破片
18	尻子内	岩手県	臼 歯
21	一の関	“ “	臼 歯
23	牛が沢	秋田県	臼 歯
24	塩釜	宮城県	臼 歯
26	長倉	福島県	臼 歯
27	沢根	新潟県	臼 歯
28	秩父	埼玉県	臼歯・下顎
29	七見	石川県	臼 歯
31	白鳥	“ “	臼 歯
32	岩尾滝	富山県	臼 歯
33	富草	長野県	臼 歯
34	戸狩	岐阜県	頭 骨
35	泉	“ “	全骨格
36	布志	島根県	臼 歯

(太字は本文に直接関係のある標本)

中新世中ごろの海陸分布と
デスモスチルス類の分布



〈第一章〉

地中^{ちちゆう}にうずもれた怪獣^{かいじゆう}たち



一、ふしぎな歯^はの化石^{かせき}

一八八〇年の春のことであつた。アメリカのエル大学^{だいがく}、古生物学研究室^{こせいぶつがくけんきゅうしつ}の教授^{きやうじゆ}をしていた、オスニエル・チャールズ・マーシユ^{マルシー}は、標本^{ひょうほん}だにならんでゐるひとつの小さな化石^{かせき}に目をとめた。

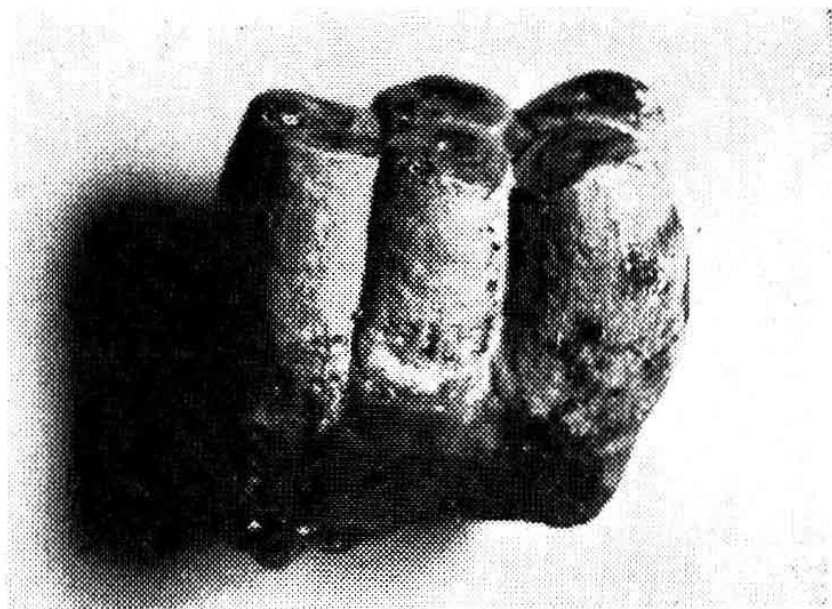
(はてな。こりやいったいなんの歯^はだろう。)

マーシユ教授^{きやうじゆ}は、それを手にとりながらふしぎそうに首をかしげた。

それは、長さが五センチたらずの円柱^{えんちゆうじよう}状のもの
が、二個^こずつ二列に、束^{たば}になってくつついた歯^はであつた。

まちがいなく動物^{どうぶつ}の歯であることは専門家^{せんもんか}のマーシユ教授^{きやうじゆ}にはすぐにわかつたのだが、教授はそんなふしぎな歯を見たのははじめてであつた。

そういえば、なぜマーシユ教授^{きやうじゆ}がそのときになつてはじめてこのふしぎな歯^はの化石^{かせき}に気づいたのかということになるのだが、じつは、教授は当時^{とうじ}、化石^{かせき}の骨^{ほね}あつめにやっきになつていて、小さなものにま



は歯の柱状の円になった束

でいちいち目をと
おしていなかった
のだ。

とくに教授が熱
をあげていたの
は、恐竜の骨で
あった。

恐竜の骨となれ
ば、教授はどれこ
れの見さかいもなく、金にいとめをつけずに買いあ
つめた。

というのは、アメリカには当時、もうひとり古生
物学者で、恐竜の骨あつめにやっきになっていた
競争あいてがいた。それは、ハーバード大学のコー
プ教授であつた。

なにしろ一八〇〇年代といえ、恐竜がようや

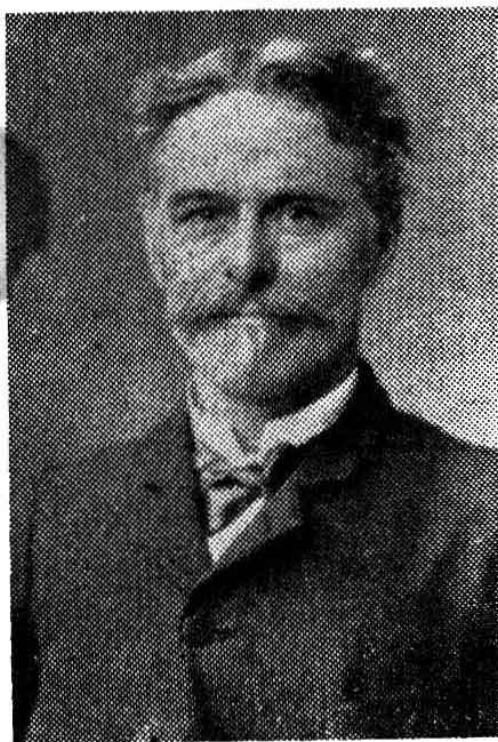
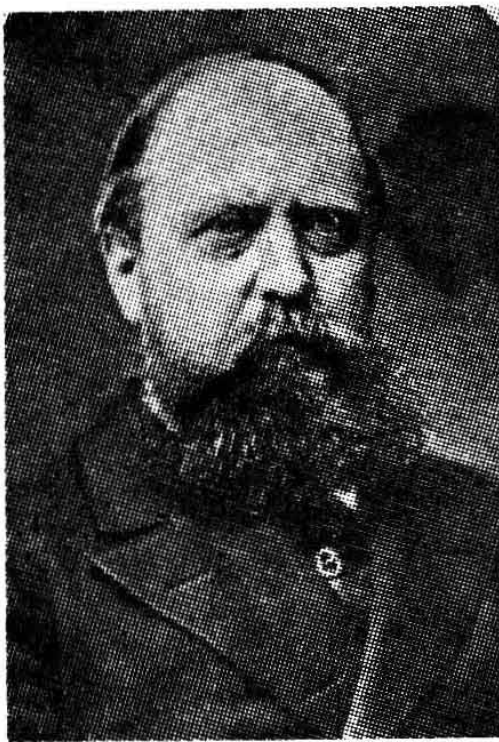
く学者たちのあいだで問題にされはじめたときであ
つた。とくにアメリカでは、その年代に、コロラド
州、モンタナ州、ユタ州などの砂漠の断崖から、ぞ
くぞくと大恐竜の骨が発見され、このふたりのラ
イバルは、まさに東奔西走、われこそは、その恐竜
化石を手に入れようとしのぎをけずっていた。

ことのおこりは、一八七七年に、コロラド州のロ
ッキー山脈に接している、豚の背ぐとよばれている
小さな丘で、ひとりの教師が巨大な骨を発見したこ
とがきっかけであつた。

この男は、掘りだした骨をマーシュ教授とコープ
教授の両方に送って、意見をもとめたのだ。

まさしく、それは恐竜の骨に相違なかつた。
マーシュ教授は、コープ教授にもおなじ骨が送られ
ていることも知らず、おどろあがってよろこんだ。

そして、発見者にさつそく金を送って、その発見を



骨あつめ競争をしたマーシュ教授（左）とコープ教授

秘密ひみつにしてくれと書きそえた。

ところが一方いっぽうのコープ教授きようじゆは、発見者はっけんしやが送はつてく
れた骨をしらべて、学会がっかいの雑誌ざっしに発表はつぷようを準備じゆんびして
いた。

マーシュ教授きようじゆから金かねをもらつた発見者はっけんしやは、あわて

て、コープ
教授に手紙てがみ
を送り、さ
つそく骨ほねを
かえしてほ
しいとさい
そくした。
コープ教授
はかんかん
におこつた
が、もはや

どうしようもなかった。

金持ちのマーシュ教授きようじゆは、発見者はっけんしやと協定きやうていをむす
び、発見した骨ほねはすべてマーシュ教授に手わたすこ
とを約束やくそくさせたあとであつた。

ところが、そのあと、こんどはコープ教授に幸運こううん
が舞まいこんだ。

コロラド州のガーデンパークというところで、
またひとりの教師きやうしが恐竜きやうりゆうの骨ほねらしいものを発見はっけんし、
こんどはコープ教授のほうに知らせたのだ。

コープ教授は、おどりがつてよろこんだ。しか
も、この骨は、マーシュ教授のものとおなじ、一億おく
年以上ねんいじようもまえのジュラ紀きの地層ちそう（地質学者ちしつがくしやたちは、
モリソン層そうとよんでいる。）から発見はっけんされ、マーシュ
教授のものよりも、はるかにりっぱであつた。（地質時
代ちしつじの区
分ぶんと生物の關係について、
24、25ページの図を参照）
「ちくしうめ、負まけるものか。」

コープ教授きようじゆのことを聞いたマーシユ教授は、持ちまへの競争心きようしんをあらわにむきだしてさげんだ。

こうして、ふたりの古生物学者こせいぶつがくしやのあいだにはげしい恐竜きようりゆうの骨ほねあつめ競争きようしゆがはじまったのだ。

マーシユ教授は、その後、すぐにワイオミング州のコモ断崖だんがいとよばれるところで、すばらしい量の恐竜きようりゆうの骨を発掘はつくつした。

マーシユ教授は、この断崖だんがいの発掘はつくつに数年をついやし、おおぜいの発掘人夫はつくつにんぶをつかつて大規模だいきぼな発掘をつづけた。

コープ教授も負けてはいなかった。かれもまた、コモ断崖だんがいへ発掘隊はつくつたいを送った。そのために、恐竜きようりゆうの骨のうばいあい、マーシユ教授の発掘隊はつくつたいの人夫にんぶとコープ教授のがわの人夫とが、はげしくあらそいあったとも伝えられている。

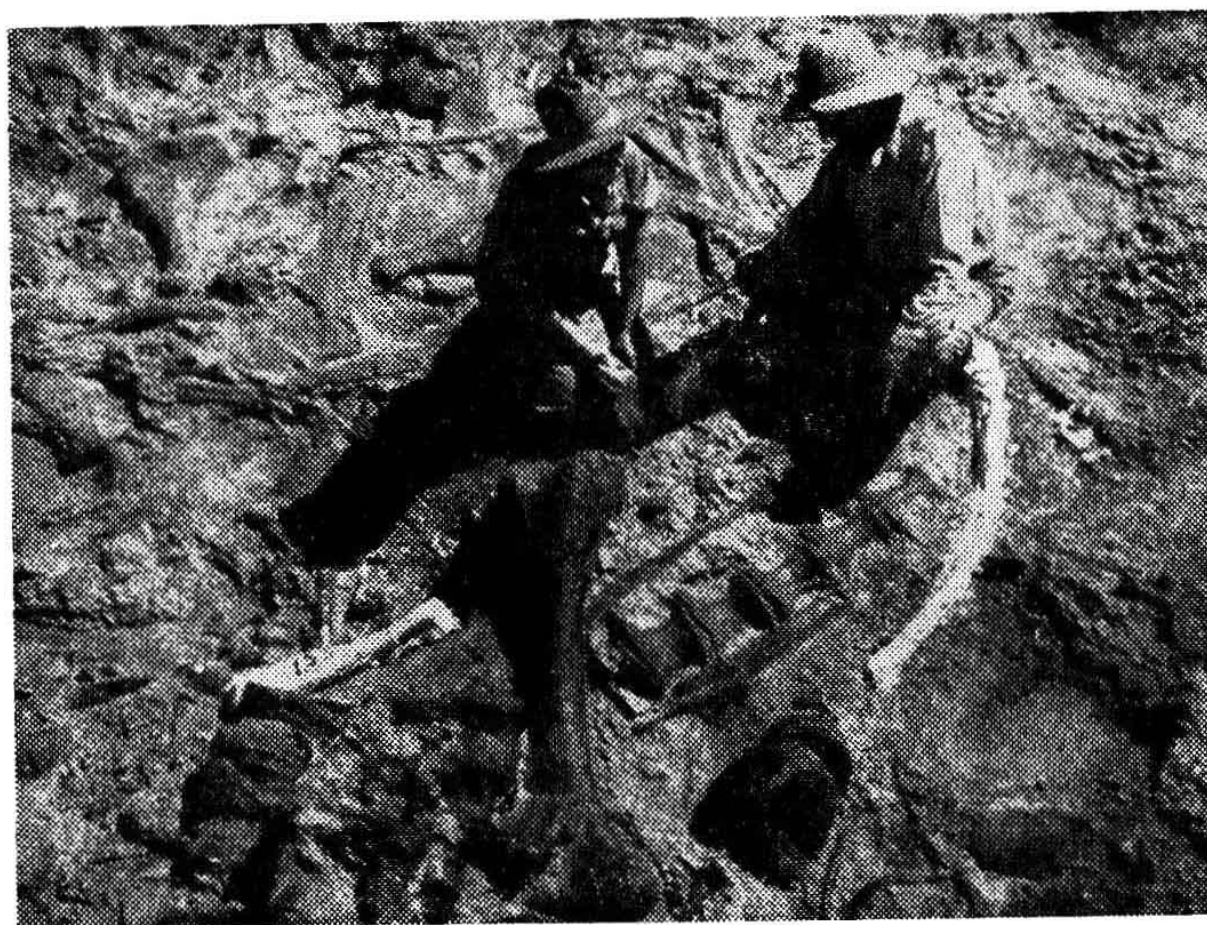
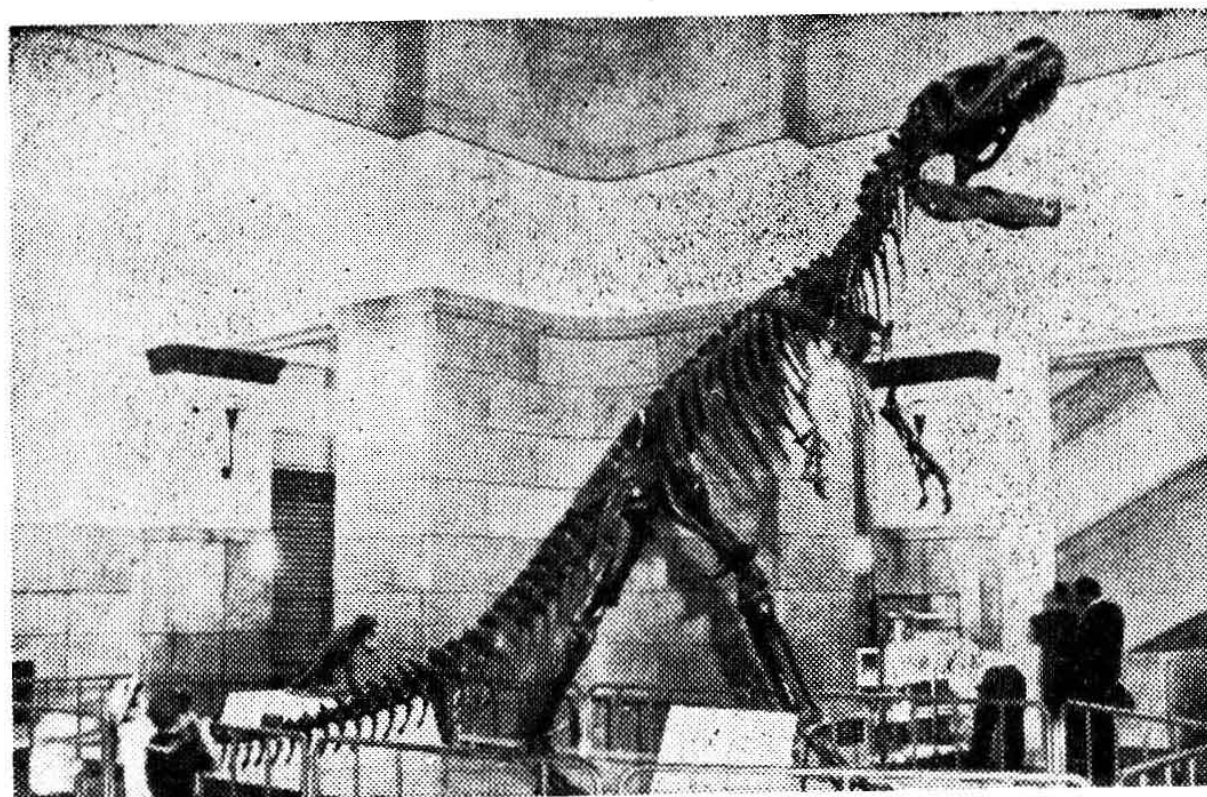
こうして、一八七〇年のおわりから八〇年のはじ

めにかけて、このふたりの古生物学者こせいぶつがくしやの精力的な発掘競争くつぎようしゆによつて、それまでに想像そうぞうもされなかつたような大恐竜だいきようりゆうの骨ほねが、ぞくぞく発見はつけんされた。

ざつとあげただけでも、全長ぜんちよう二十五メートルもある草食恐竜そうしよくきようりゆうブロントサウルスや、おなじなかまのディプロドクス、背せなかに三角にとがったきみょうな板をのせたステゴサウルス。一方、肉食にくしよくでは、ジュラ紀きでは最強さいきようのあばれんぼうといわれるアロサウルスやケラトサウルス、そのほか、カマロサウルス、キャンプトサウルスなど、ほとんど完全かんぜんにちかい骨をつぎつぎに手にいれたのだ。

ふたりの学者がくしやの研究室けんきゆうしつ、とくにマーシユ教授きようじゆがいたエール大学の研究室けんきゆうしつと博物館はくぶつかんは、まったくのころ、これらの巨大きよだいな恐竜きようりゆうの骨でうめつくされた。

とにかく、マーシユ教授は、化石かせきの骨に熱中ねつちゆうのあまり妻つまさえめとらなかつたほどである。教授は、骨



上 恐竜のあばれんぼう、アロサウルスの骨格
下 アメリカのワイオミング州で恐竜の骨を発掘

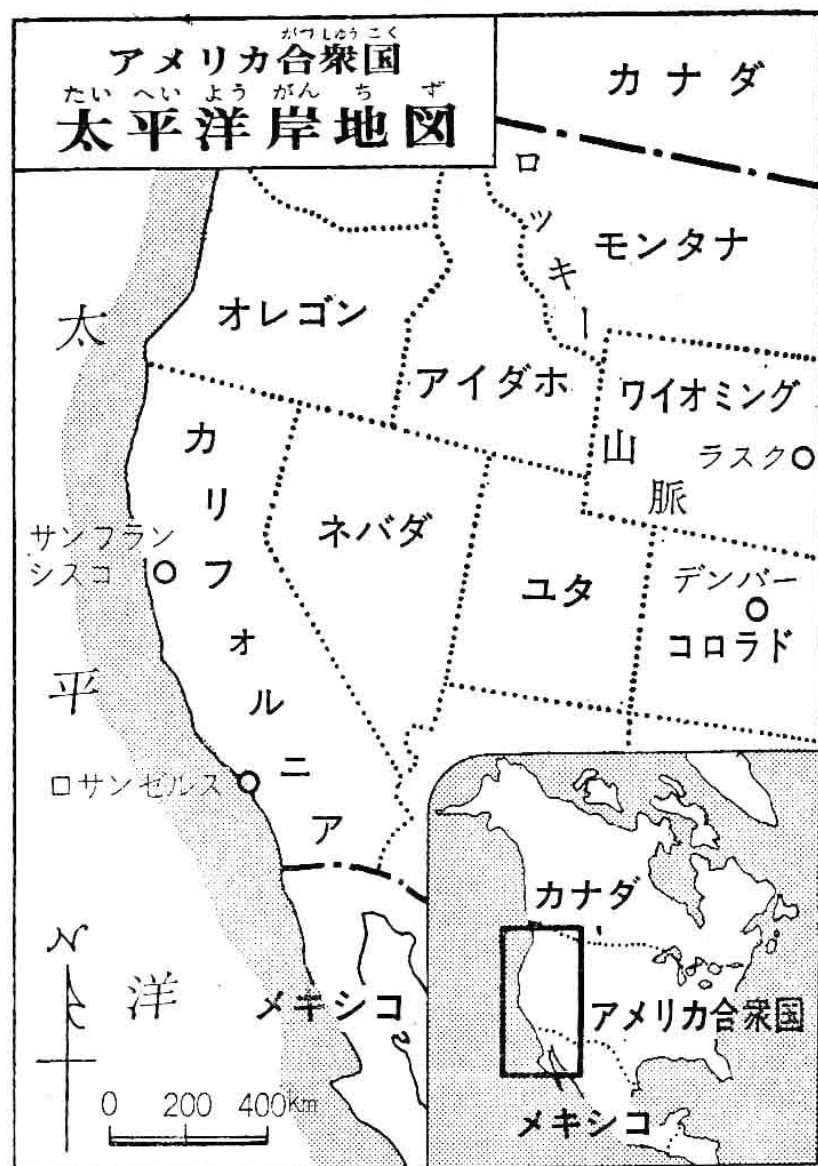
の化石なら、なんでもあつめた。だから、そのうわさを聞き、アメリカじゅうのあちこちから教授のところに買ってほしいと送ってくる化石は、毎年、お

びただしい数に達した。そのなかには、なんの骨やらわからない破片も多く、そのつど教授は、そんな小さなものにまでいちいち目をおすことはできなかった。

かった。

円柱状のふしぎな歯も、じつはそんなわけでかれのところに送られてきたもののひとつであつた。

発見された場所は太平洋岸のオレゴン州で、地層は、恐竜などよりもっとあとの時代のもので、第三紀・中新



世とよばれる、およそ二千五百万年まえから千三百万年まえのものであった。

マーシユ教授は、助手にいった。

「ともかく、これだけではなんの歯やらさっぱり見当がつかんな。それに地層が地層だから、やはり哺乳類のものであることにはまちがいなかるうがね。」

マーシユ教授は、その歯を手にし、なんどもひっ

くりかえしながら、あれこれとながめまわしていたが、どうしてもそのなぞをとくことはできなかった。「ひとまず、こんなふしぎな歯を持った動物がいるということだけは、雑誌に発表しておかないとな……」

マーシユ教授は、さっそく助手にそのことを命じた。

生物学や古生物学では、新種を発見して論文に書きとめて学会に発表することを記載とよんでいる。

マーシユ教授は、この、ふしぎな歯を持ったまぼろしの動物を、「デスモスチルス」と記載した。

「デスモス」とは束を意味し、「チルス」というのは柱を意味する。つまり、「デスモスチルス」は「束になった柱状の歯を持った動物」という意味である。

マーシユ教授は、なんとかして、この、まぼろし